



バガヴァンとの関係において、私たちはバガヴァンが広大無辺なる宇宙の最高司令官であることを実質的に理解し損ね、しばしば物事を当たり前のように捉えがちではないでしょうか。バガヴァンの「名刺」（奇跡現象）は数多く、たくさん経験があるにもかかわらず、人々は多くの場合、「バガヴァンがすべての苦行のゴールである」という真実を知ることができません。慣れ親しむことは、しばしばバガヴァンを当たり前に捉え、軽く見る態度の原因となります。26年前に、バガヴァンがどのようにして4人の幸運な学生たちにインタビュールームでこの事実を明かされたか、バガヴァンの大学の元学生であったラビン・クマール・ディヤール氏が述べた報告を読み進めていきましょう。『サナタナ・サーラティ』1998年4月号よりの抜粋です。

### タパスヤ サイはすべての苦行のゴールであることに気づきなさい

やや物思いに沈んだ雰囲気で、独り座りながら、スワミの蓮華の御足のもとにおける学生生活を心の中で再び思い返していると、実際に私がこのパラダイス（天国）の正門に入ってから貴重な7年が過ぎ去ったのだ、という考えが私を畏怖させます。それは信じがたいことです・・・私がバガヴァンの大学に入ったのは、つい昨日のことではなかったでしょうか。永遠なる御方と共に生きると、まことに人はどれくらいの時間がたったかを忘れてしまうものです。

その考えはうっすらとした悲しみ交じりの喜びを私に与えてくれます。なぜなら、スワミの愛の輝きを見つけるために内なるハートの奥底を覗き込もうとすると、すぐさまスワミがご自身の尽きることのない豊かな愛を私に注いでくださっていることがわかるからです。スワミは私たち全員にとっての道であり、

ゴールであり、スワミ無くして人生は何の意味も味わいも帯びないことを知っているにもかかわらず、私たちはスワミの愛を理解し損ねてしまいます。

スワミは何度も、外側の風貌に惑わされず、スワミの中の**神性**に気づくように思い起こさせてくださいました。たとえ話と実例、冗談と物語を通じて、スワミは絶えず、私たち皆が**真理**の家に帰り着くよう努めてくださいました。

ある晴れやかな朝、私の人生においてそのような黄金の瞬間がやってきました。1984年11月7日のことでした。私たちは皆、スワミのダルシヤンを熱心に待ち望んでいました。スワミは姿を現されたのち、4人の学生を呼ばれました。私はその幸運な4人のうちの一人でした。スワミは私たちにマンディール（寺院）の待合室（控えの間）へ行き、その部屋を掃除して片付けるように指示されました。

帰依者たちの周りを歩いて回り、待望のダルシヤンを授けられたのち、スワミはまっすぐ私たちがきれいにしている部屋の中に入って来られました。私たちは皆、手を合わせてスワミの前に立っていました。スワミは独特な、そして神聖な方法で、私たちの人生における最もまれな瞬間を授けてくださいました。

スワミはラックの上に巻かれて置いてあった鹿の皮を指差し、学生の一人に「この鹿の皮をヒマラヤに持って行って、そこで苦行をなさい」とおっしゃいました。しばらくの間、その学生は途方に暮れていました。

「スワミは本当にそう思って言われたのか？ 真剣に言われているのか、それとも愉快的な冗談として言われているのか？・・・」

スワミが私たちの答を待っておられる間、数秒間の沈黙が流れました。スワミは私の方をごらんになって、

「ヒマラヤで苦行をするのは善いことですか？」とお聞きになりました。

私はすぐに

「はい、スワミ」と答えました。しかし、この回答はスワミを満足させませんでした。スワミは御自身を指差し、

「あなたはすべての苦行の**結果**が、ここ（スワミ）にあることに気づいていないのですか？」とおっしゃいました。

このようにして、スワミは私たちに御自身の神性を垣間見させてくださり、すべての苦行の目的（である神）が血と肉をまとって目の前にいるときは、ヒマラヤで苦行をする必要はないということを示してくださいました。

スワミは続けて、

「私がヒマラヤで苦行に従事している者にダルシヤンを与えるとき、たとえそ

れがほんの数秒であっても、彼らはその神のビジョンを得られたことでこの上ない至福を感じます。そして、それをとてもすばらしい経験であると見なします。しかし、あなた方は皆、毎朝毎夕私のダルシャンを得ていながら、未だにその価値にまったく気づいていません」とおっしゃいました。

さらにスワミは美しい実例を示してくださいました。

「象を見たいと思ったとき、人々は森へ行きますね。そして運よく象のしっぽだけでも見る事ができたなら、たとえその象の体が低木のやぶや茂みに隠れていたとしても、象を見られたことで計り知れない喜びを感じます。あなた方の場合、自分たちの学生寮の前に象（サイ・ギター）がいます。しかし、あなた方はサイ・ギターを見ることを切望しません。なぜなら、サイ・ギターがいるのは見慣れた光景だからです」

私たちはこれらの例から、スワミの神聖なるダルシャンの価値に気づかなければなりません。スワミの近くにいる機会に恵まれているからには、ここにおける私たちの生活のあらゆる瞬間、すべての瞬間を最大限に活かさなければなりません。時々、私たちは迷いや絶望によって困惑させられることがあります。そのような弱気になった時には、スワミがいつも私たちの内におられることが感じられるように、私たちはスワミの慈悲深い恩寵を祈らなくてはならないのです。